令和2年度東京都補助「獣医公衆衛生学術振興事業」

SFTS疑いネコ
診療簡易マニュアル

公益社団法人東京都獣医師会
危機管理室　感染症対策セクション

概　　要

- SFTS（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome）はマダニの吸血により伝播する感染症で、ネコ科動物に感受性が高く、ネコからヒトへの感染に注意すべきである。
- ネコの致命率は60%程度。イヌでは40%以上とされる。
- ネコの重症例では急速に悪化して数日以内に死亡する。
- 痙攣発作を伴うこともあり、発作時に受傷しないよう気をつけなくてはならない。
- PPEが必須。入院には隔離が必要。
- 治療に特効薬はない。
- 症状が改善してもウイルスの消失には時間がかかる(遺伝子検査で陰転を確認する必要がある）。
- ダニの予防薬は推奨されるが、完全な対策ではない。

※イヌからヒトへの感染も報告されています。（2017年徳島県）

©2021 Tokyo Veterinary Medical Association All rights reserved.

SFTS疑いネコ診療フロー　I

非接触

1. 稟告の聴取

飼育環境

外飼いか外へ出る

室内のみ

外へ出る

同居動物

室内のみ

除外

症状

□ 元気消失
□ 食欲低下
□ 嘔吐　□ 下痢

No

除外

Yes

2. 視診

□ 活気低下　□ 肛門の汚れ
□ マダニの寄生

No

PPE判断

グローブ、アイガード、マスク（N95が望ましい）、ガウン（無ければ長袖）、採血準備、廃棄ボックス、ネコ用ネット・カラー

接触

3. 視診・触診

- 爪切り
- 検温
- 可視粘膜確認

4. 検査

- 血算、血液化学検査
- 抗体検査

©2021 Tokyo Veterinary Medical Association All rights reserved.

SFTS疑いネコ診療フロー　II

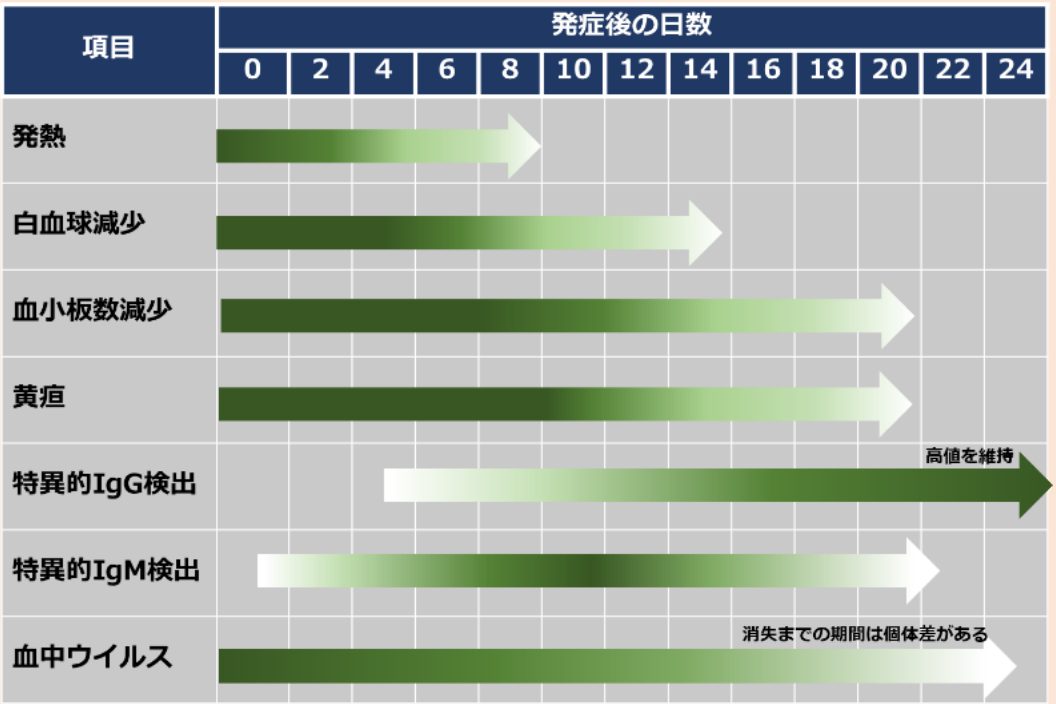
身体検査所見

- □ 発熱
- □ 元気・食欲低下
- □ 黄疸
- □ 消化器症状
- □ マダニ寄生

血液検査

- □ 白血球数　減少
- □ 血小板数　減少
- □ ALT/GPT　高値
- □ CK/CPK　高値
- □ T-Bil　高値

回復動物の経過



AMED研究班「愛玩動物由来人獣共通感染症に対する検査及び情報共有体制の構築」提供

©2021 Tokyo Veterinary Medical Association All rights reserved.

SFTS疑いネコ診療フロー　III

環境の消毒

消毒剤

□ 70% エタノール
□ 1% ビルコン
□ 0.5% 次亜塩素酸ナトリウム液

汚染場所

□ 診察台及び体液の飛散した場所
□ 猫を収容してきた容器と置いてあった場所
□ 飼い主が触った部分（ドアノブ、椅子など）
□ 診療スタッフの動線を追跡

確定検査の準備

連絡先

□ 国立感染研究所獣医科学部　前田健先生

E-mail:kmaeda@nih.go.jp （添付書類１を記入）

注意事項

□ 感染者数は６０代以上に偏りがある
□ PPEを習熟することが重要！！（添付書類２を参照）

©2021 Tokyo Veterinary Medical Association All rights reserved.

添付書類１

SFTS 検査依頼書

下記に記入し郵送願います。（□に✔、必要な部分には詳細記載）

依頼病院名		担当者名	
住所 （連絡先）	〒		
	TEL:	FAX:	
	Email:		

検体の種類	□血清　□スワブ（□ □腔内　□ 肛門 ）
検体採取日	年　月　日

患者(動物)の名前		居住地	都道府県:　市町村:
動物種	□犬（種類:　）□猫（種類:　）□その他（　）		
年齢	歳　ヵ月齢	体重:　kg	性別:
飼育環境	□室内のみ　□室内および屋外　□主に屋外		
マダニの寄生	□有　□無　□過去有（　年　月頃？）		
ノミ・マダニ予防薬 投与歴	最近の投与	製品名	
	年　月　日		
ワクチン接種歴	接種年月日（最近）	製品名	
	年　月　日		
発症年月日	年　月　日		
症状	□発熱　□白血球数減少　□血小板減少　□黄疸 □消化器症状（□下痢　□嘔吐）　□元気・食欲低下 □その他（　）		

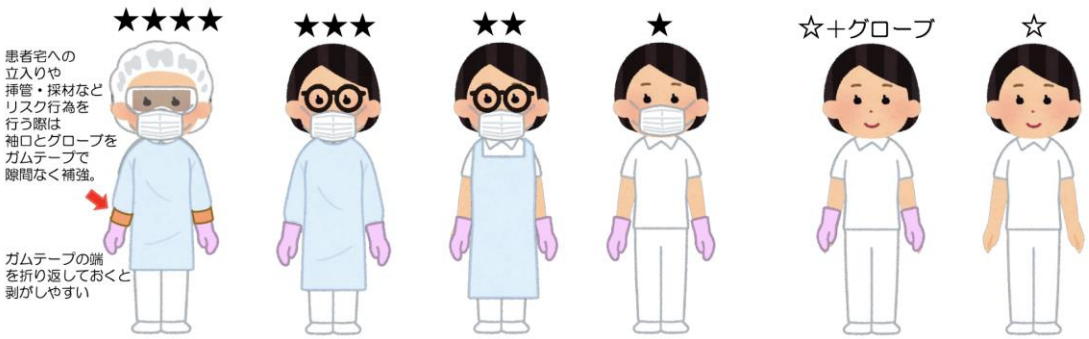
検査データ	発病初期（　月　日）	現在（　月　日）
発熱（℃）		
赤血球（μL）		
白血球（μL）		
血小板（μL）		
ALT(GPT)(IU/L)		
AST(GOT) (IU/L)		
CPK(CK) (IU/L)		
T. Bil (mg/dL)		
その他（　）		
その他（　）		
その他（　）		
発症からの経過 気付いた点		

©2021 Tokyo Veterinary Medical Association All rights reserved.

添付書類２

ペット取り扱い時の防護レベル例

レベル		装　具
強	★★★★	ゴーグル（フェイスシールド）、キャップ、長袖ガウン+グローブ（袖口をガムテープで補強）、サージカルマスク
中	★★★	メガネ、長袖ガウン、グローブ、サージカルマスク
弱	★★	メガネ、エプロン（袖なしガウン）、グローブ、サージカルマスク
簡易	★	通常医療着に洗える上着　グローブ、サージカルマスク
通常	☆	通常医療着（ケーシー、ナースウエア）のみ　作業によりグローブを装着



重要!!

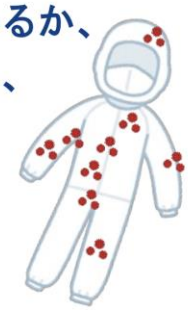
＊SFTSを疑う場合は強レベルを推奨します。
＊あらかじめ練習しておくことが大切です。
＊接触する際はまず猫の爪切りを！
＊猫の爪にはダブルグローブはほぼ無効です。脱ぐ際の感染リスクを下げるためシングルグローブにしています。
＊上記はPPEの一例です。他にも様々な方法があります。

©2021 Tokyo Veterinary Medical Association All rights reserved.

ＰＰＥの着脱で大切なこと

それは脱ぎ方です。
ＰＰＥは使用した表面に病原体が付着していることが考えられます。
そのため、脱ぐ際には汚染が起きないように、慎重に脱ぐ必要があります。

できれば補助の人が脱ぐ際の順序が守られているか、汚染が起きそうになっていないかなどを注意し、声を掛け合って脱ぐといいでしょう。



次頁から手順の一例を示します。

1. あらかじめ廃棄するための蓋付の容器を用意します。ビニール袋を内側に入れて縁を蓋の外に出しておきます。

2. 脱ぐ場所は清浄区域以外の場所で行います。

3. 先に、袖口とグローブを留めていたガムテープを剥がします。次に、ガウンを手袋もろとも脱ぎます。
①②③
ガウンの紐を外します。図のように横で結んでいる場合は、自身で外して構いませんが、後ろで結んでいる場合には、補助の人に外してもらうといいでしょう。

※説明用の写真では、先にグローブを外しています。

国立感染症研究所獣医科学部　堀田先生原図

©2021 Tokyo Veterinary Medical Association All rights reserved.

4. 肩のところを持って肘までずらし、どちらかの手で、
もう片方のガウンの腕部分を持ってグローブごと脱ぎます。
この操作はガウンの外側から行います。

5. 脱いだ手で、汚染している側を触らないようにくるくる
丸めながら、今度は反対側の手も同様に脱ぎます。
その際はガウンの内側から操作を行うよう注意してください。

6. 両方の腕を脱ぐことができたら、体から離して手を伸ばした
状態でさらにガウンを丸めてしまいます。

※説明用の写真では、先にグローブを外しています。

国立感染症研究所獣医科学部　堀田先生原図

7. 丸めた
ガウンは
蓋付の容器に
廃棄します。

8. 一度
手指を
消毒します。

9. キャップの外側を触らない
ように脱ぎ、内側を持って
蓋付の容器に廃棄します。

10. アイシールドを外側を
触らないように外し、
蓋付の容器に廃棄します。

11. マスクも表面を
触らないように外して、
蓋付の容器に廃棄します。

n95マスクの場合は、
マスクが反転して
顔にぶつからないよう
注意しながら、下側のゴムを
はずし、次いで上 側のゴムを
外して廃棄します。

12. 終わったら
すぐに手指を
消毒します。

13. 廃棄したＰＰＥは
ビニール袋の外側を持って
結んで廃棄するか、
消毒液を入れて浸漬します。

©2021 Tokyo Veterinary Medical Association All rights reserved.